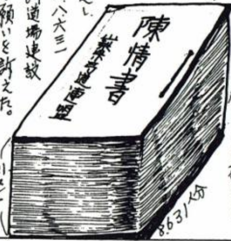
山弓連
NO.5
平2.2.20

八、六三一名の（願いをこめた）署名簿をそえて「新弓道場建設」を陳情

―知事・教委・議会に―

一月三十日、三十一日の両日にわたって、「平成四年のねんりんぴっく・平成八年の全国高校総体を開催するにふさわしい新弓道場を建設してほしい」という趣旨のお願いを、県知事・県教委・県議会・自民党県連に陳情した。

参加者は、中沢会長以下上条、横谷、鵜飼、安藤の五人。それに、平河正広、秋山豊彦の両県議も同道し、各支部や高体連で集めた、八六三一名の署名簿を携えて、新道場建設の必要性と、会員の切なる願いを訴えた。



会員の意志と願いの集積である署名簿は、その厚さ21センチにも及び、持ち運びにはだいぶ苦労したが、しかし陳情に際しては、長い説明をするよりもそれ以上に我々の意志を伝えるのに有効であった。

陳情の結果は、知事からは、「なんとか、二つのイベントに間に合うようにしたい。」という答えをいただき、また、他の方々からも、「なんとかしなければならない問題なので、期待にそえるよう努力する。」という回答を得、まずまず、大成功であった。

今後は、早速、新道場の場所、広さ、設備内容等について具体的に検討し、他県のものにまさるとも劣らない立派な道場が出来るよう努力したい。

署名集めのご苦労に、深く感謝すると共に、今後とも、新道場建設に至るまで、いっそうのご支援、ご協力をお願いします。

なお、集めていただいた署名の内訳は下表の通りです。報告かたがた、厚く御礼を申し上げます。ありがとうございました。

◆集まった署名の内訳

甲府	51人	西八代	85人	都留	10人
中巨摩	58	東八代	125	富士吉田	28
北巨摩	78	東山梨	42	教職員	28
韮崎	7	山梨	18	高体連	7,865
南巨摩北	148	大月	42	合計	8,631人
南巨摩南	23	北都留	28		

※各支部での署名は、当初は「会員の署名」ということでお願いしたのですが、途中から熱気があがって、家族や知人の署名まで集めてくれた所があって、会員数を越える数が集まる結果となりました。

納射会

12月10日

四四名参加。（但し、申しこみは八一名）

四ツ矢二回の競技の結果、七中三名、六中が四名となり、競射の末、次の通り入賞者が決まった。今回の特徴は、いつもの入賞常連にかわって、比較的新しい顔ぶれになったこと。

一位 深沢 勇 7中（若草）
二位 滝沢 忠 7中（境川）
三位 上条 皎 7中（上野原）
四位 和智 一雄 6中（〃）
五位 三井 和 6中（御坂）

なお、ことしも昨年同様、中央審査合格者、弓道連、県体協表彰者に記念品を贈った。（望月吾愛氏揮毫「射者仁道」の扇子）受賞者次の通り。

秋山照美、天野裕 長田長久
標衣枝 坂本静雄 安藤秀保
酒井茂幸 渡辺良雄 小泉弥吉
畑川皓 広瀬郁秋 堀越繁太郎
岡田武文

平成2年初射会

「地区対抗」は峡東が優勝 個人戦は荒井（吉田）がV

一月七日、晴れ。ことしは何か良いことありそうな。まず、会長の先唱で、「礼記射義」と「射法訓」とを朗々と高唱して競技に入る。

新しい試みとして、今回の初射会には、地区対抗戦を導入したので、優勝を狙って、参加者を多くする努力をした地区もあったが、しかし、宣伝不足もあって、思うように参加者をふやすことが出来なかった地区もあった。

地区対抗戦は、各地区毎に、それぞれ上位10人の的中数を得点とするという方式をとった為、参加者を最も多く集めた峡東地区が有利に試合をすすめて初優勝した。個人戦では富士吉田の荒井紀彦君がヤングパワーを爆発させ、四射皆中でみごとに優勝をさらった。

来年も地区対抗戦では、ことしの峡東にならって、各地区とも、なるべく多数の選手を集めて優勝杯を射とめて下さい。（なおこの優勝杯は、中沢会長よりの寄贈です。）

成績は次の通り。

◆団体戦
1 峡東 24中
2 峡西 18中
3 郡内 18中
4 峡南 14中
5 甲府 教職員 7中

◆個人戦
1 荒井紀彦 4中（吉田）
2 古屋浩元 3中（若草）
3 坂本致英 3中（吉田）
4 河西伊勇男 3中（白根）
5 平山雅雄 3中（石和）

教錬士会発足

永い間の懸案であった山梨県弓道教錬士会が発足した。二月一八日、石和町泉山荘で結成総会を開き、今後、会員相互に、射技射法の錬磨と人格の完成を目ざしての研修を積み重ねていくことを話し合い、次の通り役員を決定した。発展と充実を切に祈る。

会長 渡辺良雄
副会長 秋山一長、藤本芳朗
理事長 畑川皓 ほか理事、会計…

トピックス

高校生リーダー研修会 1/5～6

県下各高校から、リーダー60人を集めて開催。講師は酒井錬士を中心に高体連弓道部役員の諸氏。初日は体配中心、二日目は射技を重点に、寒気をも吹きとばす程の熱のこもった特訓を繰り返した結果、体配、射技ともに格段の進歩を遂げた。今後がおおいに楽しみ。

県体育祭打合会 1/26

県体協との協議の結果、ことしも前年同様、初日（9月23日の予定）の午前から、二会場（市・村と町）で同時開催ということで了解がついた。なんとか、時間にせきたてられずに運営できそう。

スポーツリーダーバンク

この耳なれないコトバの説明を受けたのが一月九日。『弓道を習いたいという要請があった時、指導できる人を県で登録しておきたい』とのこと。それを一月中に、本人の承諾と登録調書を作って提出せよというのだから大忙し。役所や企業の内部でならともかく、全県にまたがる民間団体に、そんな早業が出来るわけはない。止むを得ず、第一段階として当面、教士受有者の中から登録可能者を募って、お願いすることにした。その結果、次の方々の登録ができました。

堅光寺貞良、秋山一長
遠藤侃一、上条皎
秋山照美、中沢利正
畑川皓、田中守正
小林武彦

今後、なお巾を広げて登録可能者を募る予定なので、その節はよろしく。

訃報

高野正次氏（石和）

一月五日逝去。錬士五段。（大叙の追援を受ける）泉山荘弓道場経営、各種大会や、関ブロ講習会などに会場を提供し、弓道の普及と発展につくした功労者。享年八七才。謹しんでご冥福を祈ります。

小松礼次郎氏（増穂）

一月二四日逝去。錬士五段、かいじ国体では国体部事務局員として活躍した、国体成功の功労者。まだ働き盛りの五六才。その頃から病を得て、四年。遂に帰らぬ人となった。ご冥福を祈ります。